

平成27年度

東京外国語大学オープンアカデミー教養講座（後期開講）

「言葉とその周辺をきわめる」

-4-

企画：東京外国語大学 語学研究所

ご案内

このたび語学研究所では「言葉とその周辺をきわめる -4-」をテーマに公開講座を企画・開講することとなりました。

この講座では、言葉の単なる入門ではなく、講師自身が研究上興味を持って追究していること、フィールドワークのこと、言葉にまつわる事情などを、講師それぞれのこだわりを持って独自の切り口で言葉の魅力を探ります。地球上のさまざまな地で言葉の魅力を追う言語学者の情熱に接してみるのはいかがでしょうか。言語学等の専門知識、学習経験は特に必要としません。広く言葉に関心のある方のご参加をお待ちいたしております。

日程・講師

- | | | |
|-----|-----------|--|
| 第1回 | 10月6日(火) | 「スイス・アルプスの少数言語ロマンシュ語 ―その過去・未来・現在―」
富盛伸夫 東京外国語大学名誉教授 |
| 第2回 | 10月13日(火) | 「ふしぎな、ふしぎなアラビア語」
長渡陽一 東京外国語大学非常勤講師 |
| 第3回 | 10月20日(火) | 「フランス語を通して見える「世界」」
秋廣尚恵 東京外国語大学講師 |
| 第4回 | 10月27日(火) | 「ハンゲル、その成立をさぐる」
趙 義成 東京外国語大学准教授 |
| 第5回 | 11月10日(火) | 「インドネシア語を学ぶことと教えること」
降幡正志 東京外国語大学准教授 |
| 第6回 | 11月17日(火) | 「クレスィ (Kresy) のポーランド語 ―歴史と現在」
森田耕司 東京外国語大学准教授 |

- いずれも火曜日、19:00～20:30（質疑応答を含む）
- 専門知識・予備知識は必要ありません。
- 教材は各回ごとに配布します。教材費は不要です。
- 最終回に受講証書を授与します。
- 毎回教室入り口の受付において出席を取ります。
- 記録保存のために、教室後方から講演の様子を撮影させていただきます。ご了承ください。

会場

東京外国語大学 本郷サテライト 7階

〒113-0033 東京都文京区本郷2-14-10 (駐車場はございません)

<http://www.tufs.ac.jp/access/hongou.html>

- 都営バス： 本郷二丁目停留所 徒歩1分
- 東京メトロ丸ノ内線： 本郷三丁目駅 (M21) 2番出口下車徒歩3分
- 都営地下鉄大江戸線： 本郷三丁目駅 (E08) 5番出口下車徒歩4分
- 都営地下鉄三田線： 水道橋駅(I11) A1出口下車徒歩6分
- JR線： 御茶ノ水駅 お茶の水橋口下車徒歩7分



お問い合わせ先

東京外国語大学

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

受講申込みについては...

⇒⇒ 総務企画課

Tel : 042-330-5823 / Fax : 042-330-5140 / E-mail : tufs-openacademy@tufs.ac.jp

ホームページ : <http://www.tufs.ac.jp/common/open-academy/index.html>

講座の内容については...

⇒⇒ 語学研究所

Tel : 042-330-5407 / Fax : 042-330-5408 / E-mail : ilr419@tufs.ac.jp

ホームページ : <http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/index.html>

各回の概要

第1回 10月6日 (火)

「スイス・アルプスの少数言語ロマンシュ語 ―その過去・未来・現在―」

講師：富盛伸夫 東京外国語大学名誉教授

スイス・アルプスの谷間で 2000 年の間話されているロマンシュ語は、言語人口約 35,000 人（スイス人の 0.5%）の少数者言語です。ローマ時代にアルプス先住民族の言葉がラテン語化され、ゲルマン民族からも強い影響を受けて形成されたロマンシュ語は、ルネッサンス期に活版文化とともに大きく成長し、少数民族の存在証明として現在に至っています。1938 年にスイス第四の「国語」、1996 年に「公用語」となったロマンシュ語の復興の試みとその未来を、EU 地域の少数言語政策も参照しつつ考えてゆきます。

第2回 10月13日 (火)

「ふしぎな、ふしぎなアラビア語」

講師：長渡陽一 東京外国語大学非常勤講師

911、そして、アラブの春以来、アラビア語を耳にする、目にする機会が増えてきましたが、それ以前から「ゼロ」、「ライス」、「コーヒー」などの言葉はご存知だったはずですが、これらもアラビア語をとおして私たちに伝わってきた言葉なのです。中世の一大文明圏を担った、このような豊かなアラビア語の“ふしぎ”の世界へご案内いたします。

(1) まずはアラビア文字の“ふしぎ”です。みみずの這ったような形も神秘的ですが、それにもまして、これが子音しか書いていない、母音は書かれていないとなると、読むというより、まさに「解読」です。アラビア語は、「読める」を超えた、「解読」の楽しみを味わえるのです。どうして、この「解読」さながらの文字をみんなが読めているのか、というふしぎに迫ります。

これを解くカギは、脚韻を踏む詩を発達させたアラビア語ならではの「語形」にあります。セム諸語の中でもアラビア語は、「子音語根×語形」という仕組みを、かなりの精度にまで発達させ、脚韻どころか“全韻”(?)まで踏むことができってしまう言語になりました。

(2) もう1つの“ふしぎ”は、アラビア語の方言の謎です。アラビア語では、別の方言の、私たち外国人の耳にまったく違って聞こえる単語が、彼らの耳には同じ単語として聞こえるのです。これは、じつは、子音だけの文字とも関係があります。

(3) そして3つめの“ふしぎ”は、なぜアラビア語は学ぶのが難しいのかです。これは学習者には重大です。発音は、珍しい発音もありますが、カタカナでもおおかた通じるし、文法はスペイン語などと共通する部分も多く、とりたてて難しいわけではありません。この、ふしぎな難しさは、実は、アラビア語が、「ダイグロシア」と呼ばれる、二層からなる言語であることによるものです。

第3回 10月20日(火)

「フランス語を通して見える「世界」」

講師：秋廣尚恵 東京外国語大学講師

カール大帝の有名な言葉に、「1つの外国語を知っているということは、もう一つの魂を持つことである。」(Avoir une autre langue, c'est posséder une deuxième âme) とあります。言い換えるならば、「1つの外国語を学ぶということによって、もう1つの別な視点から、世界を見ることができる」ということになるでしょう。本講義では、受講生の皆さまとご一緒に、フランス語を通して見える新しい「世界」の旅にでかけたいと思います。

まず、世界地図を片手に、フランス語を話す地域を眺めてみます。フランス語が話されている地域は数多くあります。フランス語が各地で見せる多様な姿、それぞれの社会での役割、他の言語との接触を概観します。

次に、フランス語で用いられる幾つかの基本的な表現や語彙をとりあげながら、フランス語がどのように「現実世界」を表現しているのか、さらには、そうした表現を使うことによって、話し手が「現実世界」にどのように働きかけているのか、といった問題を皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

第4回 10月27日(火)

「ハングル、その成立をさぐる」

講師：趙 義成 東京外国語大学准教授

世界の文字の多くは自然発生的に作られ用いられてきています。しかし、朝鮮語を表記する文字・ハングルは人為的に作られた文字で、制作時期、制作意図、制作者などが明らかになっている珍しい文字です。最近では東京でもよく目にするようになったこの文字、○や□が並んで難しい記号のようにも見えますが、実はそんな味気ない文字ではありません。この文字の誕生秘話を知ると、朝鮮半島の文化が見えてくるのです。

第5回 11月10日 (火)

「インドネシア語を学ぶことと教えること」

講師：降幡正志 東京外国語大学准教授

インドネシア語は、2億5千万もの人口を抱えるインドネシア共和国の国語・公用語です。けれども、フォーマルなインドネシア語と話しことばとの違いの大きさ、数百にも及ぶ地方語の存在など、国内の言語状況は実に多様であり、インドネシア語を学んだり教えたりする中で、このような状況をどう考慮するかも一つのポイントとなります。

現在、日本では多くの機関でインドネシア語を教えています。日本人（日本語話者）を対象として教える際には、フォーマルなインドネシア語を念頭に置き、また日本語（あるいはそれに加えて英語）との対照という面からアプローチすることが一般的ではないかと思います。今回は、「学ぶ」という観点からインドネシア語の特徴を説明するのに加え、「教える」という立場から、どのようなことが面白く、どのようなことが難しいかといった点についても焦点を当ててお話ししたいと思います。

第6回 11月17日 (火)

「クレスィ (Kresy) のポーランド語 —歴史と現在」

講師：森田耕司 東京外国語大学准教授

ポーランドの旧東部領土にあたるリトアニア南東部・ベラルーシ西部・ウクライナ西部地方は現在、ポーランド語では「クレスィ (Kresy)」と呼ばれ、民衆レベルではポーランドの伝統が今も続いており、様々な民族の言語と文化が共存する多様性に富んだ、魅力的な地域となっています。

この講座では、まず、それらの地域でポーランド語が使われるようになった歴史的経緯について概説します。その後、それらの地域で現在話されているポーランド語の主な特徴を、共存する周辺言語との接触による影響も考慮に入れながら、ご紹介いたします。